

日蓮大聖人御書全集

やどやさ えもんみつのり

ごじょう

宿屋左衛門光則への御状

新版
855
〜
856

やどやき えもんみつのもり

ごじょう

宿屋左衛門光則への御状

ぶんえい ねん

文永5年（'68）10月11日

がつ にち

47歳 宿屋光則

さい やどやみつのり

せんねんかんが

しよ あんこくろん ふごう

ごんじょう

先年勘えたるの書・安国論に符合せるについて、言上せ

そらら お

しめ候い畢わんぬ。

しよがつじゆうはちにち

せいじゆう

だいもうここく

ちようじょうとうらい

そもそも正月十八日、西戎・大蒙古国より牒状到来

あん

にちれん

しようにん

いちぶん

すと。これをもつてこれを按ずるに、日蓮は聖人の一分に

あ そらら

おんたず

あず

当たり候か。しかりといえども、いまだ御尋ねに予から

そらら

かさ

かんじょう

さな

ず候のあいだ、重ねて諫状を捧ぐ。

ねが

ごきえ

じそう

ちようじ

ほけきょう

希わくは、御帰依の寺僧を停止せられ、よろしく法華経に

帰^きせしむべし。もししからずんば、後悔^{こうかい}何ぞ追^おわん。この

おもむき

じゆういちしよ

もう

そうろう

さだ

ごひようぎあ

趣^そをもつて十一所に申せしめ候^{こう}なり。定^{さだ}めて御評議有

そうろう

きでん

あお

たてまつ

はや

にちれん

ほんもう

るべく候^{こう}か。ひとえに貴殿^{きでん}を仰^{あお}ぎ奉^{たてまつ}る。早^{はや}く日蓮^{にちれん}が本望^{ほんもう}

と たま

を遂^とげしめ給^{たま}え。

じゆういちかしよ

もう

へいのさえものじようどの

もう

十一箇所^{じゆういちかしよ}と申^{もう}すは平左衛門尉殿^{へいのさえものじようどの}に申^{もう}せしむるところな

いしつもう

そうろう

じようしよふんみよう

り。委^い悉^{しつ}申^{もう}したく候^{こう}といえども、上^{じよう}書^{しよ}分^{ふん}明^{みよう}なるのあい

しやうりやく

そうろう

みけしき

ごひろう

しよき

だ、省^し略^{りやく}せしめ候^{こう}。御^ご気^き色^{しき}をもつて御披^{ごひ}露^{ろう}、庶^{しよ}幾^きせし

そうろう

きようきようきんげん

むるところに候^{こう}。恐^{おそ}々^ず謹^{きん}言^{げん}。

ぶんえいごねんつちのえたつじゆうがつじゆういちにち

にちれん

かおう

文永五年戊辰十月十一日

日蓮

花押

謹上 きんじょう

宿屋入道殿 やどやのにゆうどうどの